



手話サークル研究班



～ 「手話」は聴覚障害者にとって大切な言葉です ～

～ 「手話サークル研究班」の思い ～

メディアや地域で開催されている手話講習会の影響で手話に興味を持つ人たちが増え、「手話」に対する理解は確実に広がってきました。

でも、「手話」への理解が広がること、「聴覚障害者」への理解が広がることは、イコールではありません。

手話に関われる時間、年齢等々、さまざまな条件の人たちが集うサークルでは、当然手話技術レベルはまちまちだと思いますが、そこにこだわる前に「手話」を健聴者の自己満足な趣味に終わらせることなく、学んだ手話を通して「聴覚障害者と共に歩む」という気持ちを持っていただきたいと思います。

「手話サークル」の役割は、学んだ手話を通し、交流しながら「聴覚障害」に対する理解を深め、聴覚障害者と地域をつないでいくことだと考えます。

～ 「手話サークル研究班」のプロフィール ～

2004年4月、9名のメンバーで発足。

2004年9月の神通研集会・第1分科会「サークル」を担当。

その他、神通研・関東通研・全通研の行事、集会に参加。

2005年6月現在、川崎4名、横浜3名、県域10名、神聴連1名、計18名で活動中。

～ 定例会 ～

地域のサークルの様子や情報等の交換、神通研集会の準備を行っています。

原則として 第4日曜日・13:00～15:00

横浜駅西口・かながわ県民センター12階ボランティアコーナーで開催。

(いつでも、どなたでもお気軽にご参加下さい)

6/26 定例会報告

今年度の神通研集会のテーマは「サークルと地域との関わり」。

サークル以外の活動(社協・ボラ協・学校等との関わり)を行っていく中で、聴覚障害及び手話への理解を地域に広げていく役割についての意見交換を行いました。

【次回定例会】7/24(日)10:30～
県民センター・12階

～ '04年神通研集会 第1分科会報告～

聴覚障害の理解を広めるためにサークルが出来ること

- ・地域の行事への参加
- ・学校の総合学習の場を通し、聴覚障害の理解も広める
- 「手話サークル」と「講習会」の違いは何?
- ・「講習会」は手話を学習するところ
- ・「サークル」は学んだ手話で交流しながら聴覚障害も理解するところ
- 資格を持たないサークル会員のボランティア通訳
- ・友達としての範囲と命・権利・財産に関わる専門通訳とのけじめはしっかり持つ

～サークル研究班メンバーのささやき～

「手話」に出会って5年。

ろう者に「火事と火災の違いは何?」と聞かれ、えっ?!

「前日」は後ろで、「後日」は前。「梅雨が明ける」のときに「明るい」の手話を使うと「梅雨が始まる」になってしまう・・・等々・・・何気なく使っている日本語の難しさ、そして手話の難しさをひしひしと感じている日々。でも、手話でろう者の人たちと笑い合えたとき、もっともっといっしょに楽しみたいと思う。<ミモガ>